本日のテーマ「生きもの、よもやま話」

実施日：2021年11月21日

1 **「骨格百科-スケルトン-」**
アンドリュー・カーク／著　2017年　グラフィック社
【481.1】
骨格の構造を知ることで、体の動かし方がわかり、運動のしかたや食事についても考えるようになり、また、古代の生物、恐竜にいたるまで、連なるように知見が広がっていった本でした。

2 **「その犬の名を誰も知らない」**
嘉悦洋／著　2020年　小学館集英社プロダクション
【916カ】

映画「南極物語」をみて、一番気に入ったのは、タロ・ジロではなく、"彼"でした。いつか犬を飼う時は、"彼"の名前をつける！と決意したのを、この本を読んで思い出しました。
まだ若犬だったタロとジロを生存させた"彼"とは、どの犬だったのか…ぜひ読んでみてください。

3 **「ことり屋おけい探鳥双紙」**
梶よう子／著　2014年　朝日新聞出版　【N カ】

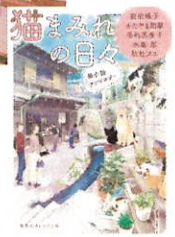
夜になると胸元が青く光る鷺を探して、行方不明になった亭主の羽吉を待ちながら、日本橋で飼鳥屋の「ことりや」を切り盛りする妻のおけいの物語。時代小説ですが読みやすいです。

4 **「ハシビロコウのすべて」**
今泉忠明／監修　2019年　廣済堂出版　【488.5】
ハシビロコウは、動かないことで有名で、正面顔がコワモテで、よく白目をむくそうです（実際は、白目ではなく瞬膜だそうです）イケメン(?!)なハシビロコウをどうぞ。

ラテン語で"くじらあたまの王様"というそうですよ！

5 **「猫と庄造と二人のおんな」**
谷崎潤一郎／著　2012年　新潮社　【SN タ】
谷崎潤一郎の作品といえば、「細雪」「春琴抄」「痴人の愛」が有名ですが、猫好きにはぜひ読んでほしい本です。

6 **「猫だまりの日々」**
谷瑞恵／著ほか　2017年　集英社　【YSN ネ】
「猫まみれの日々」
前田珠子／著ほか　2018年　集英社　【YSN ネ】



"猫には、猫の人生ならぬ猫生があり、各猫にエピソードがあるかもしれません"
猫好きの方にはたまらない猫アンソロジー！癒されて下さい。

7 **「人生を変えてくれたペンギン」**
トム・ミッチェル／著　2017年
ハーパーコリンズ・ジャパン　【488.6】
1970年代のアルゼンチンで、実際にあったお話です。ペンギンの人懐っこさ、賢さ、愛らしさがじわじわと伝わってきます。

8 **「図説馬の博物誌」**
末崎真澄／編　2001年　河出書房新社　【645.2】
古代からの馬と人とのかかわりがよく分かります。
神社に「絵馬」がありますが、なぜ馬なんでしょうね。

9 **「野菜を守れ！テントウムシ大作戦」**
谷本雄治／著　2018年　汐文社　【626】
飛ばないテントウムシでアブラムシをやっつけるという天敵農法。はねをグルーガンという接着剤でくっつけます。
え？飛ばなくて大丈夫？大丈夫なんです!!

10 **「村田エフェンディ滞土録」**
梨木香歩／著　2004年　角川書店　【N ナ】
「家守綺譚」梨木香歩／著　2004年　新潮社
「冬虫夏草」梨木香歩／著　2013年　新潮社
参加者からのおススメ本です。"是非、3冊一緒にかみしめて読んで欲しい！"とのことです。